

住み継ぎの段階性にみる交流施設の役割と運営実態に関する研究 —大分県竹田市における移住者が運営する施設を対象として—

正会員 ○轟木 龍介* 同 姫野 由香**
同 宮下 達平*

住み継ぎの段階性 関係人口 交流
農山村地域 移住 ヒアリング調査

1. 研究の背景と目的

現在、農山村地域では人口減少などを背景に、様々な振興策が取り組まれている。その一つとして、総務省により平成21年に創設された「地域おこし協力隊（以下、協力隊）」がある¹⁾。協力隊は、移住者と農山村住民との中間支援組織としての役割が期待されている。

また、農山村における新たな地域づくりの担い手として、移住を前提としない者を含めた「関係人口」^{2) 3)}が注目されている。「住み継ぎの段階性」⁴⁾（表1上側赤色部分）に示すように、関係人口には移住者から旅行者まで多様な段階がある。またこれらの関係人口の創出や維持には、段階に応じた地域との交流機会が重要であると考えられる。

既往研究⁵⁾では、平成27年から平成30年までの協力隊員数が、全国で最多であった大分県竹田市に着目している。そのなかで、飲食機能や宿泊機能を有し、移住者や地域住民、旅行者なども利用する施設における、運営体制など、多様な利用者間の交流機会を誘発する要因を明らかにしている。しかし、それぞれの施設が、多様な「住み継ぎの段階性」のどこに遡及するのかが明らかになっていない。

そこで本研究では、農山村地域の住み継ぎの各段階に有効な、交流施設の整備に関する有益な知見を得ることを目的とする。

2. 研究方法

文献調査と現地調査、ヒアリング調査により、対象施設の通常運営の連携体制を把握し、各施設がどの住み継ぎの段階性の遡及する施設なのかを分析する。その結果をもとに、各施設における開設プロセスと連携体制を整理し、地域との協力関係の実態を明らかにする（4章）。さらに、施設の平面・立面から建築的特徴を分析する（5章）。こ

れにより住み継ぎの段階性の各段階に遡及する施設の整備に関する有益な特徴を明らかにする（6章）。

3. 竹田市における交流施設

本研究では多様な交流の中間支援機能^{註1)}の視点から、「地域協力活動」に従事した経験を持つ人物が運営する交流施設^{註2)}に注目する。5施設を研究対象とし、（表2）に概要を示す。施設1から施設4は駅から400m圏内かつ商店街周辺に、施設5は駅から400m圏外に立地している。

また表1に、各施設通常運営時の利用者属性と各施設がどの住み継ぎの段階性の利用が見られたのか分析した結果を示す。施設2、施設4は全ての段階の利用が確認でき、施設1、施設3、施設5は一部の段階の利用が確認できた。本報では、施設2と施設3の特徴を分析する。

4. 交流施設開設時の連携体制

各施設改修時の連携体制を表3上段に示す。

定住人口から交流人口まで、全ての段階の利用が確認できた施設2では、100名を超える改修協力者が確認できた。協力者の属性としては、周辺住民や移住者に加え、旅行者など多様であった。ヒアリング調査でも、施設開設の準備段階から、周辺住民から旅行者まで多様な人々との関係構築が重要視されていることがわかっている。

一方、一部の段階の利用が確認できた施設3では、特定の業者に依頼し改修が行われていた。また、改修協力者は1名であった。つまり、改修は基本的に業者に依頼し、改修

表2 竹田市の交流施設

施設名称	運営開始日	交流機能				移住支援機能			駅からの距離
		飲食物販	福祉	集会	宿泊	移住相談	展示		
施設1 古町 kitto	平成27年1月				○				約200m
施設2 たけた駅前ホテル「cue」	平成29年4月	○	○			○			約200m
施設3 みんなのいえ「カラフル」	平成30年10月	○		○	○				約300m
施設4 リカド	平成27年11月 ※平成29年8月 ※平成25年5月 ※令和	○				※○			約400m
施設5 城下町交流館「集」	※令和	※○			○		○	○	約800m

※は集の運営再開日、リカド二階の運営開始日

表1 住み継ぎの段階性の概念と通常運営時の利用者を基にした考察結果

定住人口			関係人口				交流人口		
財産の継承	地縁組織役員	地縁組織参加	移住	お試し移住	二地域居住	定期旅行	交流	旅行	無関係
施設1			利用者：周辺住民 住まい探しの移住希望者						
施設2			利用者：周辺住民 移住者 移住希望者 旅行者 外国人						
施設3			利用者：高齢者 子ども				施設3 旅行者 外国人		
施設4			利用者：周辺住民 移住者 お試し移住者 移住希望者 旅行者 外国人						
施設5			利用者：20~40代の周辺住民 移住者 二地域居住者 移住希望者						

A study on the role and management of regional communication facilities for some stages of migration
Case study of facilities managed by migrants in Taketa city, Oita prefecture

TODOROKI Ryusuke, HIHENO Yuka, MIYASHITA Tappei

費削減のため、運営者の交友関係を中心に少人数の改修協力があつたことがわかる。

5. 交施設の建築的特徴

各施設の一階平面図を表3下段に示す。

全ての段階の利用が確認できた施設2では、1施設内に2つの運営主体がある。多様な利用者が短時間滞在する飲食機能と、旅行者等が長時間滞在する宿泊機能が併設されている。機能間の境界部分が、カウンターを挟み各機能運営者と利用者の交流空間^{注3)}となっている。また、前面道路側の壁がガラス張りとなっており、道路から内部の様子が確認できるようになっていた。

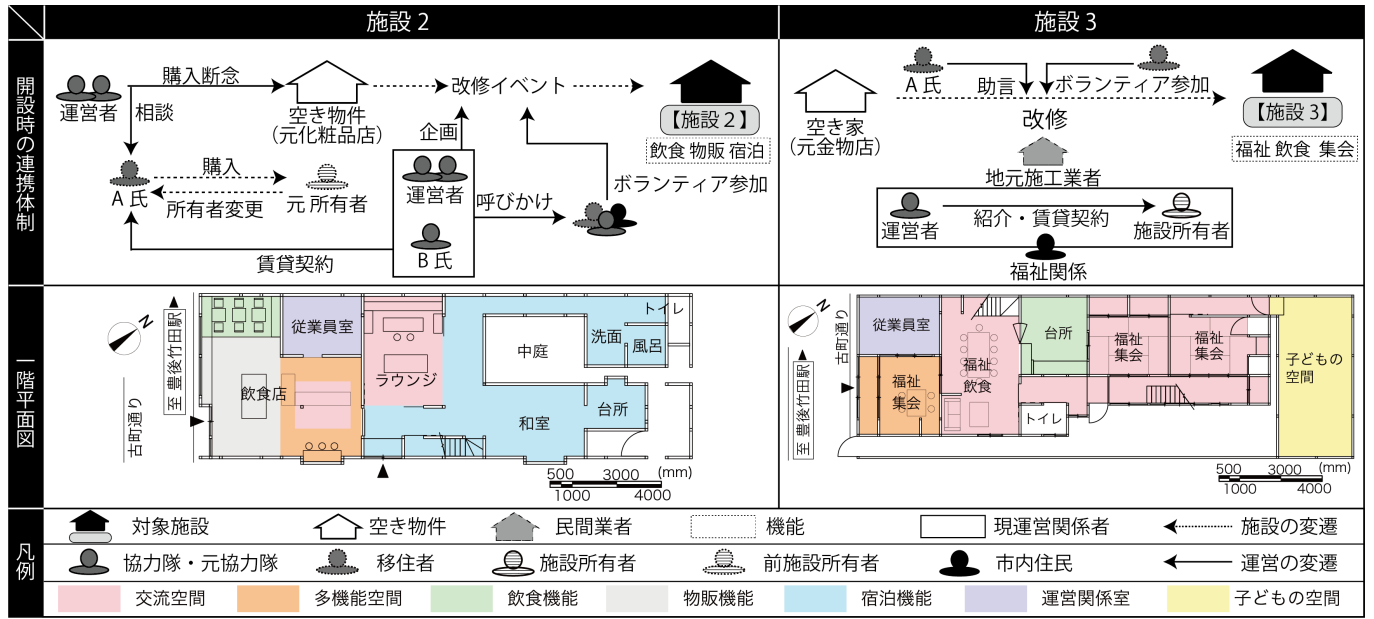
一方、一部の段階の利用が確認できた施設3では、ソファ席や椅子席、和室、子どもの遊び場である子どもの空間など、利用者のための多様な居場所創りがなされている。また、各室に多数の機能が設けられている。それにより、1階の半分以上が多様な利用者同士の交流空間となっており、施設全体が一体的に利用され、世代間の交流に繋がっている。しかし、前面道路から内部の様子が視認しづらくなっていた。

6. 総括

本研究では、大分県竹田市における5件の交流施設が、住み継ぎの段階性における、主に利用がみられた段階を、通常運営時の連携体制から考察した。その考察結果をもとに、各施設開設時の協力関係の実態と建築の特徴を明らかにした。

全ての段階の利用が確認できた施設2、施設4では、施設改修時に100人を超える多様な人々の協力があつた。また、宿泊機能などのプライベート空間と飲食機能などの多様な利用者が短時間滞在できる機能が併設されていた。

表3 施設開設までの連携体制と施設平面図



まり、施設開設以前からの多様な関係構築が重要視されると考えられる。さらに、移住を考える拠点としての機能と、多様な人々が日常的に集い、交流が行われる空間を備えていることが特徴であると考えられる。

一部の段階の利用が確認できた施設1、施設3、施設5では、改修を業者と運営者の交友関係の数名で行っていた。

また、全ての段階の利用が確認できた施設と比較し、前面道路から内部の様子が確認できない施設や、立地が駅から離れた施設が確認できた。そのような特徴により、一部の段階の利用が確認できなかったと考えられる。

しかし、施設の一体的な利用や、多様な居場所創りによって施設の半分以上の面積が交流空間となっていた。それにより利用者間の交流が補われていると考えられる。

本研究では、大分県竹田市の交流施設での調査であったが、様々な地域における各住み継ぎの段階性ごとの交流施設の特徴を分析することで、汎用性のある施設特徴を精査することが必要であると考えられる。

【補注】

注1)「住み継ぎの段階性」の段階間の交流を創出することが関係人口の維持増進に向け重要であり、宮下2019(参考文献5)では協力隊員は地域住民と移住者、協力隊の交流機会を誘発する中間支援機能の役割を担うとある

注2)本研究では、地域おこし活動の支援・住民の生活支援などの「地域協力活動」に従事した経験を持つ人物が運営に携わる施設に注目する。なかでも、利用者が地域住民に限らず、宮下2019(参考文献5)にある、多様な利用者を滞留させる機能として挙げている飲食機能、宿泊機能と世代間交流を図る集会機能や移住体験につながる宿泊機能や移住相談機能、移住した芸術家のための展示機能をもつ施設を「交流施設」と定義した。

注3)他機能利用者との交流、もしくは旅行者と周辺住民など多様な利用者属性間での交流が確認できた空間

【参考文献】

- 1) 総務省, 地域おこし協力隊推進要綱, 平成21年3月
- 2) これからの移住・交流施設のあり方に関する検討会「これからの移住・交流施設のあり方に関する検討会 報告書」, 平成30年1月
- 3) 小田切徳美 (2019) 「地域をめぐる新しい動きと展望-農山村の実態から-」総務省
- 4) 佐久間康富, 山崎義人「住み継がれる集落をつくる営みのなかの『農村協働力』」
- 5) 宮下達平, 姫野由香, (2019) 「大分県竹田市における地域おこし協力隊が運営に携わる交流施設の変遷と連携の実態-地方都市における移住・定住の促進に関する研究-」日本建築学会九州支部論文集

*大分大学大学院工学研究科博士前期課程

**大分大学理工学部創生工学科建築学コース・助教 博士(工学)

* Graduate Student, Oita Univ

** Research Associate, Div. of Architecture, Dept. of Innovative Engineering, Fac. of Science and Technology, Oita University, Ph.D